

大会プログラム

\*〔教〕専任教員、〔研〕研究員、〔院〕大学院学生

<p>〈大会企画〉シンポジウム「これからの古典教育を考える」  趣意説明・司会 奈良教育大学〔教〕 有馬 義貴  基調報告1「古典教育という営為—国語科教員の立場から—」  奈良女子大学附属中等教育学校〔教〕 井浪 真吾  基調報告2「うたを重ねる—和歌短歌・和漢比較教材とメディア文化—」  宮崎大学〔教〕 中村 佳文  基調報告3「古典の魅力を発見させること—研究は教育に活かせるか—」  和洋女子大学〔教〕 吉井美弥子  パネリスト討議・質疑応答</p>	<p>リアルタイム  中継型  10月17日(土)  午後</p>
<p><b>研究発表会</b>（以下の配列は秋季大会申込受付順。○印は、2020年度春季大会発表予定者。）  『源氏物語』若紫巻異見—「及びなう思しもかけぬ筋」をめぐって—  国文学研究資料館〔教〕 岡田 貴憲  教科書の中の「藤原道長」  —「望月」の表象と〈戦前〉の歴史教育、国語教育をめぐって—  ○鹿島文庫〔研〕 坪 美奈子  清水浜臣書入れ本『枕草子春曙抄』「山は」段の考察  —加藤馨齋『清少納言枕草紙抄』との関係を起点として—  ○東北大学〔院〕 渡邊 美希  『在明の別』の人物と構造—作中和歌の検討から—  九州大学〔教〕 辛島 正雄  『源氏物語』匂宮の薫物と〈園芸残渣〉について—香りを創る人としての再考—  佐賀大学〔研〕 田中 圭子  『土左日記』における日次記の効用—漢文日記との比較から—  北海道大学〔院〕 大場 健太  狭衣物語・深川本系本文享受の—様相—  —為明本における「九重の」歌およびその周辺本文を例として—  大阪大学〔院〕 小林 理正  『うつほ物語』の琴の名称と漢籍との関係について  ○國學院大學〔院〕 本間 悠子  「餞」歌考  ○皇學館大学〔教〕 吉井 祥</p>	<p>オンデマンド  配信型  10月17日(土)  10月18日(日)</p>
<p>第13回中古文学会賞受賞者発表  総会</p>	
<p>委員会</p>	<p>メール審議  10月17日(日)</p>

発表要旨、参加方法等の詳細は、学会公式サイト・大会特設ページからご確認ください。